

# がん・心臓病・脳卒中

現代日本人の死因の6割を占める「がん」「心臓病」「脳卒中」。その予防法や最新治療などを専門医が分かりやすく解説します。

## 子宮頸がん —最近の話題—

がん



産婦人科 部長  
角田 肇

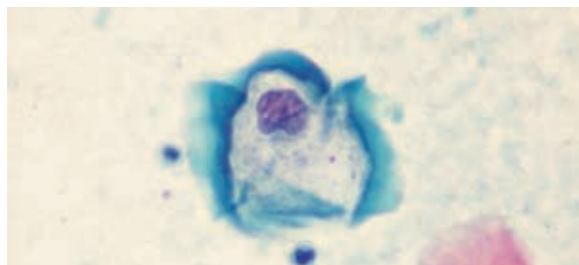
### がん検診が有効な「子宮頸がん」

2年前のがんコラム(もしもし Vol.4 May/ Jun.2005)で子宮頸がんには定期的ながん検診が非常に有効で、我が国で増え続けるがん死亡者数の中で、がん検診による早期発見、早期治療により死亡者数が激減してきた数少ないがんであることをお話ししました。

### 「子宮頸がん」とヒトパピローマウイルス感染

子宮頸がん検診は、子宮頸がんを目的としていることはいまでもありませんが、実は子宮頸がん以外の異常も健康な女性からかなりの割合(100人中1人)で発見されます。がん検診の結果として、これらの方にも精密検査のご連絡がいき、とても心配をかけていることと思います。

では、子宮頸がん検診で何が見つかるかというと、ヒトパピローマウイルス(HPVと略します)というウイルスに感染している細胞で



ヒトパピローマウイルス感染細胞

す。HPVというウイルスは、肝臓がんと肝炎ウイルス、胃がんとピロリ菌の関係と似ていて、子宮頸がんの犯人と考えられています。しかしながら、HPVに感染してもほとんどの場合は自然に治ってしまうことが分かっています。現在では、約8割の女性が、一生のうちに一度はHPVに感染した経験を持っていると推測されています。

従って、子宮頸がん検診で精密検査の通知が来たとしても、多くの場合は検査の時に偶然HPVに感染している細胞が見つかっただけです。3~4カ月ごとの検査によりHPV感染細胞がなくなることを確認していけば、特別な治療は必要ありません。

100種類以上あるHPVの中でも、子宮頸がんと関係しているウイルスは16型、18型というウイルスを含めて数種類のみです。従って、16型、18型などのHPV感染細胞がいつまでも居続ける場合は、将来的に子宮頸がんになる可能性が心配されます(約20%)。自費診療になってしまいますが、心配な方はHPVの型まで分かる検査が可能です。

### 「子宮頸がん」とHPV予防ワクチン

子宮頸がんの原因がウイルスだとしたら、ほかのウイルスによる病気のようにワクチンで予防できるのではないかと考えられた読者の方はすばらしいです。昨年、アメリカでHPV予防ワクチンが承認されました。ヒトパピローマウイルスに感染する前にHPV予防ワクチンを打つことにより、結果的に子宮頸がんを予防できる日が近いかもしれません。

## 虚血性心疾患

心臓病



循環器内科 医師  
遠藤 悟郎

### 虚血性心疾患と症状

虚血性心疾患とは、狭心症・急性心筋梗塞のことをいいます。狭心症は、心臓自体の筋肉に血液を送る冠動脈の内腔が動脈硬化によって狭くなることによって起こり、動脈硬化の結果、冠動脈の内壁にできたもろい組織(アテロームといいます)が血管の中で破れ、それにより血栓(血のかたまり)ができて、冠動脈が詰まることによって急性心筋梗塞が起こります。狭心症の典型的な症状は、例えば駅の階段を駆け上がった時、坂道を上った時に、左胸の辺りが絞めつけられる・圧迫される・焼け付くなどで、通常は安静にして数分以内に消失します。それに対して、急性心筋梗塞の症状はもっと激しい痛みで、押しつぶされる・締め上げられる・棒をねじ込まれるなどと表現され、通常は安静時に起こり、30分以上持続します。虚血性心疾患に対しては、できるだけ速やかに冠動脈の狭くなった部分や血栓をコントロールする治療、いわゆる冠動脈インターベンション術と抗血小板療法が必要とされます。

### 治療法「冠動脈インターベンション術」

冠動脈インターベンション術とは、循環器内科医が局所麻酔で行う血管内手術です。カテーテルと呼ばれる柔らかく細長い管を手首や足の付け根の動脈から入れて冠動脈に少しだけ挿入し、狭いあるいは詰まっている冠動脈を風船で広げたり、ステントと呼ばれる合金の網目状の管を冠動脈に入れたりします(図1)。また、動脈硬化の部位は時間がたつと硬い石灰化と呼ばれる状態になり、風船だけでは容易に広がらなくなることがあります。そのような場合はロータブレードという人工ダイヤモンドチップが散りばめられたドリルのようなもので、石灰化の部位を削ったりします(図2)。また、風船あるいはステントを拡張した際に、押しつぶされた血栓やアテロームが冠動脈の先で詰まってしまうことが分かってきました。そこで、それを防ぐため少しでも血栓の量を減らす目的での血栓吸引カテーテルや、血栓を下流でバルーンやフィルターなどで捕まえる末梢保護カテーテルなども開発され、当院でも使用しています。またこのような虚血性心疾患になりやすいのは、高脂血症・糖尿病・高血圧・喫煙・肥満・ストレスが多い・血縁に虚血性心疾患の人がいるなど、動脈硬化の危険因子を持っている方で、一つでも持っている方は、それをなくす努力をする必要があります。

具体的には運動をする、なるべくカロリーのない食事をして体重をコントロールする、塩分を減らす、禁煙をするなどが挙げられます。

